

林 猪都子 氏の学位審査結果の要旨

主査： 葛 幸治

副査： 藤澤 順一、岡崎 和一

ヒト回虫はヒトを終宿主とし、成虫は小腸において定着寄生する。本研究は、未だ明らかになっていないヒト回虫が宿主の免疫から回避する機構の一序を解明することを目的とし、遺伝子レベルにて検討した研究である。その結果、ヒト腸 cDNA ライブラリーを用いたスクリーニングと遺伝子による同定により、ヒト回虫はヒト transmembrane mucin12 と相同性の高い遺伝子を有していた。また、免疫染色により小腸において、ヒト Mucin12 は陰窩の周囲に存在する粘膜上皮と絨毛に局在していたが、ヒト回虫中は、分泌器官と上皮、腸管に局在していた。タンパクレベルでの解析によりヒト回虫は、ヒトの Mucin12 とは異なる Mucin12 様タンパクを発現していた。ヒト回虫は、免疫回避機構の一つとして、共通抗原性物質 Mucin12 様タンパクを発現・分泌することで、宿主の免疫を回避していることが示唆された。以上より、本研究の成果は、今後のヒト回虫の免疫回避機構の解明が期待されるため、本研究の成果は、今後のヒト回虫の免疫回避機構の解明に寄与するものであり、学位に十分値すると考えられる。